

谷村地区

上谷

曹洞宗 大龍山法泉寺 長生寺末

本尊由緒

本尊虚空蔵菩薩木仏坐像像長17cm、肩巾9cm、膝張り13cm、面長5cm、面巾3cm、脇侍不動尊、毘沙門天で共に立像、像長各17cm、

13cm、

興起縁由

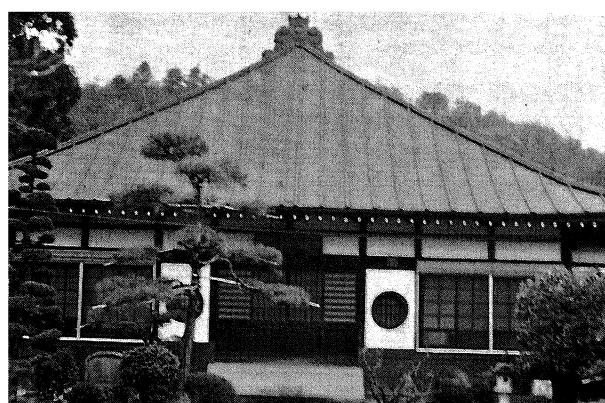
(甲斐国志による)

開基明岳周光和向此

某子出家して禪門に入り得悟の後此地に

一寺を建立し法泉庵と称す慶長の頃法泉

寺と改む天正十年壬午九月十七日寂、初め天正五年長生六世笑伝宗咄和尚と本末



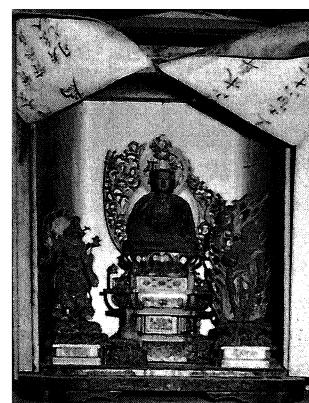
開山履歴
創立開山長生六世大通惠光禪師笑伝宗咄和尚。
中興開山天巖祖暉和尚。

結構規模

[本堂] 木造平屋トタン葺寄棟75K×75K。

[庫裡] 大正十三年改築現代に至る。

付属建物として十王堂がある2×2K



本尊
法泉寺 祖暉禪師の掛軸一中
古鏡 直經13.8cm。
古器、什器、宝物、
子 文政三年八月金

興起縁由
(甲斐国志による)
開基明岳周光和向此
某子出家して禪門に入り得悟の後此地に
一寺を建立し法泉庵と称す慶長の頃法泉
寺と改む天正十年壬午九月十七日寂、初め天正五年長生六世笑伝宗咄和尚と本末

童子作直徑42.5cm、深さ33cm、



かがめや地蔵尊

本尊由緒

甲斐国志に、本尊は十一面觀音と記されているが焼失して今は無い。現在の本尊は千手觀音、馬頭觀音の合祀にして運慶作といわれている。

寛政八年丙辰三月十七日当山十二世記録に、「當寺本尊者雲慶之作而甲陽郡中之靈仮也」とある。安置年月日不詳。千手

觀音は木像坐体で像長42cm、面長21cm、越頭觀音も木像坐体、像長39cm、面長18cm、

合祀

菩提達磨大師、大權修利菩薩、道元禪師、地蔵菩薩立像賓頭



開山履歴

開山天翁宗葩大和尚は、夏狩本寺宝鏡寺第六世にて、

本尊由緒

享禄四辛卯年六月十日示寂。

結構規模

境内地一反四畝二十一歩

[本堂] 木造向拝造り8K×5K。トタン葺

[庫裡] 木造8K×5K、トタン葺

[付属建物] 稲荷堂35K×2K

舞台3K×25K 東司2K×

の約を定む周光波後笑伝當寺に退隠し天正十三年乙酉十一月十九日寂、是を開山と称す。此の後百年的間平僧住職、八世元禄七甲戌年天巖祖暉和尚入院、和尚開眼の石地蔵あり今

十王堂に安置す元禄十二己卯年四月二十四日開眼に云汝元來大幡山石、我是久遠実成仏、曲躬地蔵、曲躬地蔵是より地蔵稍々かがめりと云伝ふ祖暉より法寺となり中興開山と称す。

藏地蔵は石造仏にして像長110cm、胸巾34cm、面長20cm、面巾かがめやかがめやかがめやかがめや

歴代住職

開山天翁宗葩——一世悟叟蓋頓——三世大璉宗陽——四世牛見祖牧

——五世太寛悅道——六世玉峯翻瑞——七世泰宗峰觀——八世瑞麟秀天

——九世麟山金牙——十世宗岳圓教——十一世智岳祖見——十二世虎山大抽

——十三世大亨謙道——十四世鐵英靈牛——十五世泰岳玄昇——十六世清

雲鶴翁——十七世瑞雲龍光——十八世悟中玄洞——十九世大心祖雄

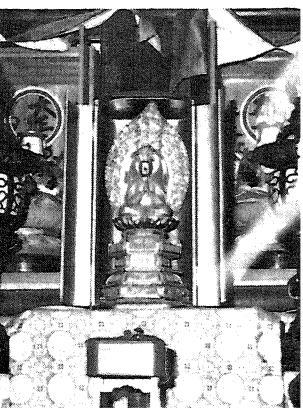
——二十世天中義孝（現住）

淨土真宗大谷派 水上山西願寺 東本願寺末

上谷

郡内三十三番觀音靈場第一番札所。
お百度詣り。

日



晋門寺 本尊

現住)

石仏觀世音菩薩石仏立

像（元禄十二年己卯）

地藏菩薩石仏坐

像 青面金剛

百度石 万靈塔。

行事

一月三カ日宝祚長久

祈願 春秋彼岸会

益会 本尊縁日

宗祖忌 宇蘭

民間信仰

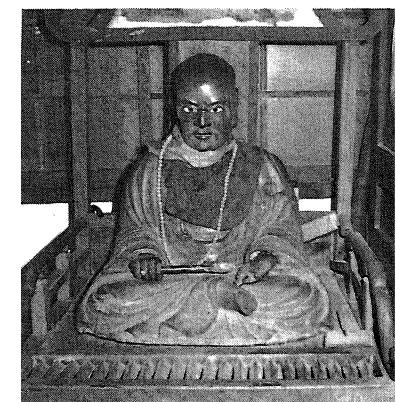
弁財天女像、

阿弥陀三尊佛。

この三尊佛は朝日の石船神社隣りの阿弥陀堂に祀られてあったもので、昭和十四年廢堂となつたため西願寺へ合祀された。阿弥陀三尊佛は朝日の石船神社隣りの阿弥陀堂に祀られてあったもので、昭和十四年廢堂となつたため西願寺へ合祀された。聖徳太子像、一木像で延享三年西願寺へ合祀された。太子像裏に、五十七歳と刻銘がある。また延享三年施主朝日村橋本定衛門と銘記されている。

本尊縁日（四万六千）

興起縁由



おびんずるさん

元天台宗に属し大江親広により開基された。（甲斐国志には、

開基西願法師貞和四年戊子年（一三四八）基立とある。）

この寺は往古瀬中村にあり、この地は弁財天の堂地であった。

天正の頃この地に寺を移し、弁財天を太子堂内に安置した。

十二世明俊代、天正十八年七月本尊一幅を本願寺頸如上人裏

結構規模

境内は四反二畝、大門の長さ一三〇間その幅は一丈四尺あつて西願寺の長大門と呼称されている。

〔本堂〕木造寄せ棟造り瓦葺 九〇坪

〔庫裡〕木造瓦葺 六十五坪

〔総門〕木造瓦葺 一・五坪

〔山門〕木造瓦葺 十二坪

〔付属建物〕太子堂 五・二五坪 弁財天との相殿

宝物殿 三・五坪 納屋一棟

歴代住職

開山紹玄法師 嘉禄元年に開山

五世西願法師（二世より四世まで不詳）応安四年一月三日寂。世寿四十七才。西願寺と寺号を改む。

六世紹円空法師——七世（不詳）——八世紹智玄法師——（九世より十世まで不詳）——十一世紹寂恵法師——十二世紹明俊法師——（十三世、十四世不詳）——十五世紹明玄法師——（十六世、十七世不詳）——十八世紹寂照法師——（十九世、二十世不詳）——二十一世紹寂湛法師——（二十二世不詳）——二十三世紹明正法師——（二十四世不詳）——（現住）

開山履歴

開山は、嘉禄元年（一二二五）

講社

同朋会

おとりしんレ講

古器什器宝物

六字名号蓮如上人筆一幅（南無阿彌陀仏）96.5 cm × 39 cm

十字名号実如上人筆一幅（帰命尽十方無碍光如來）71 cm × 32 cm、

後水尾院御書籠名号（南無天滿大自在天神）竹久ダレ織り、
164 cm × 24 cm、

御文一巻実如上人筆、御文一巻証如上人筆

秋元但馬守書簡

魚籃觀音像軸、小栗宗丹画年代不詳、

竜 狩野常信画 121 cm × 53 cm、

虎 狩野常信画 121 cm × 53 cm、

狩野常信は、一六三六一一七一三の人で七十七才にて歿した。

狩野家三代目の画家で探幽は叔父であると伝えられている。

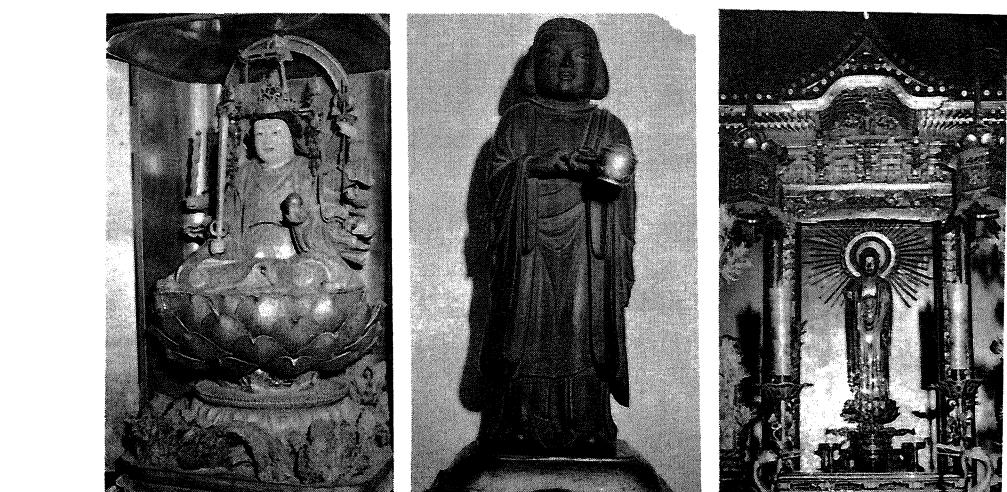
なお、常信は古川叟、養林、右近とも号した。

古松埋石園軸 雲室道人画、

法華經妙典 木版 六〇枚 28.5 cm × 98 cm

太子像、弁財天像、三尊仏

本堂大間内陣欄間の天女の舞い弁財天（63 cm × 176 cm）の彫刻、
西側欄間松に鶴のつがい並に松に鶴の巣ごもりの浮彫り（70 cm
× 200 cm）



本堂襖表の鶴 岳鄰画 本堂襖裏の竜 狩野梅宿行信画
茶壺 陶器 口径45 cm、高さ5 cm、胴径7 cm、これは大江家の家宝とされている陶器で蓋は象牙である。

記録によると

「(1)茶壺は初代春慶の作、

袋は蜀紅の錦

である。春慶は宋に行き天

熙公より毛利家に伝わり、

祖母多美子が毛利家から貰

い受けたものである」と記されている。

天財像 行事 報恩講 永代

淨土宗 禅定山長安寺

上谷 智恩院末

末寺は四カ寺ある。

本尊由緒

阿弥陀如来 木

像金箔仕上、総

長（台座共）33

cm、

脇侍觀世音菩薩

（前立仏）二体、

像長94 cm、面長

11 cm、

地蔵菩薩 金銅

仏座像、像長24

cm、面長75 cm、

興起縁由

境内除地二反八畝十五歩、山林六反歩。
〔本堂〕木造トタン葺10 K × 9 K。

〔庫裡〕木造トタン葺65 K × 13 K。

〔鐘樓堂〕総門、地蔵堂、鎮守（愛宕権現）等。

〔観音堂〕3 K × 4 K、本尊は秘仏とされている。西国写郡

内三十三番札所第二番になっている。ご詠歌に

山田氏の別荘なり天正十年鳥居彦右エ門領知の時旧館其まゝにて有しを十三年元忠開基の仏刹となし生善上人を請して開

長き世をただ安かれとこの寺の仏をおがむ身こそたのもしと詠まれている。

古器什器宝物

託聞法眼筆真向弥陀像一幅、紙本彩色124 cm × 90 cm、山越えの三尊像といわれ、平安末期から鎌倉時代にかけて活躍した託問派の製作になるものと伝承されていた。

涅槃図 紙本掛軸彩色150 cm × 90 cm、

弘法大師真筆六字名号一幅

十王図（地獄變相図）掛軸十面十幅に仕立ててある。120 cm ×

51 cm、作者松留旭輔

曼荼羅 紙本彩色掛軸100 cm × 51 cm、

虎溪三笑図（唐画）紙本掛軸墨色、116 cm × 154 cm、この幅は秋元氏時代（喬朝）領主秋元氏の懇請で上納したといわれ、代替として御用絵師「常燿」が写しをつくり贈ったといわれている什宝である。

この画題は、中国の六朝時代晋の惠遠法印は、靈山東林寺で行をつみ、三十年来客を送る虎溪の石橋を渡ったことがなかった。たまたま陶淵明、陸修靜が來訪して政談に時を過し、夜になつて二人を送りたがらも話はつきず、気づいた時にはすでに石橋を渡っていた。三人は手を打つて大いに笑つたという故事にならつたもので、狩野派（正信ともいわれている）の画家の筆になるものらしい。

茶壺 常滑焼か、口径 13.5 cm 底径 14 cm 高さ 32.5 cm
由来は前記当山寺記を参照



長安寺 本尊



秘仏 鏡世音菩薩